

# 九州医療センター 呼吸器内科における専門研修

## 九州医療センターの特徴

- 九州医療センターは九州全域を診療圏とする高度総合医療機関です。
- 39診療科が稼働しており、高度専門医療を提供しています。
- 救命救急センターを併設し、急性期疾患に対して幅広く対応しています。
- 福岡市の中心部の利便性が高い立地です。また、都市高速からのアクセスが良好であり、比較的遠距離からの通勤も可能です。

## 九州医療センター 呼吸器内科での研修の特徴

- 福岡市中心部の基幹総合市中病院での豊富な臨床経験
- 充実した臨床教育体制
- 充実した研究指導

## 福岡市中心部の基幹総合市中病院での豊富な臨床経験

- 当科では1年間で約1400例の入院症例を受け入れています。
- 間質性肺炎、肺癌、喘息、COPD、肺炎、非結核性抗酸菌症など、幅広い症例を経験できます。
- 総合病院として、各診療科と連携が必要となる症例を多く経験できます。

## 間質性肺炎に対する十分な研鑽を積むことができます

- 間質性肺炎パス入院による徹底した評価と治療方針立案を行っています。
- 外科的肺生検とMDDを積極的に実施しています。
- MDDは関連施設の久留米大学と協力することで、画像・病理の専門化との十分な連携が可能となっており、診断プロセスに参加することでびまん性肺疾患に対する十分な教育を受けることが可能です。
- 日本における有数の治験登録施設であり、治療開発についても習熟する事が可能です。

## 肺癌に対する十分な研鑽を積むことができます

- 肺癌に対する全ての高度医療（手術、放射線治療、抗癌薬治療）が当施設で実施可能です
- 癌薬物治療指導医1名が在籍しており、臨床・研究双方に対して指導を行っています。また、常に複数の治験へ登録を行っており、臨床試験に必要な知識を得ることができます。
- JCOGなど肺癌臨床試験グループの主導する多施設研究や、企業治験に参加しており、臨床試験に対する知見を深めることが可能です。
- 癌薬物治療指導医1名が在籍しており、癌薬物療法の専門指導が可能です。

## 気管支鏡に対する十分な研鑽を積むことができます

- 年間約450例の気管支鏡検査を実施しています。
- BAL、EBUS-GS、EBUS-TBNAなど一般的な手技に加えて、EWS充填などのインターベンションも経験可能です。

### 令和4年度の当科実績

入院患者:約1400例  
気管支鏡:458件  
間質性肺炎パス入院:50例  
間質性肺炎症例の多施設MDDを定期的に実施  
呼吸器内科、外科、放射線科によるカンファランスを定期開催。肺癌に対する集学的治療を行っています

### 令和4年度 呼吸器内科レジデント1名の臨床経験

入院患者:300例  
気管支鏡検査（術者として）：約120例  
胸腔ドレーン:約40例  
気道インターベンション(EWSなど)の経験が可能です  
適宜、担当症例の呼吸器外科手術見学が可能です

## 充実した臨床教育体制

- 当科では呼吸器内科専門医5名（指導医4名）が在籍しています。
- 専攻医は必ず指導医とチームを組んで診療にあたっています。また、週2回のカンファランスにて、入院全症例を評価しています。これらの指導体制により、“専攻医が一人で困ることがない” 研修指導体制を心がけています。
- 週1回の内科・外科・放射線科カンファランスにて、集学的治療方針についての検討を積極的に行っています。各診療科の垣根は低く、円滑な連携体制を構築しています。

## 充実した研究指導

- 当科では臨床研究に力を入れています。
- 研修医時代には、臨床のみに没頭していた医師が、経験を積むうちに研究に興味を持つことがしばしばあります。それは、「なぜこのような現象が起こるのか?」、「この病気にはこの検査や治療が有効ではないのか?」という臨床的疑問点 (クリニカルクエスト) が気づくからです。
- この疑問点を解決することが、患者さんの予後を改善につながる可能性に気づくことができれば、更なるモチベーションが向上につながります。
- 研究に興味のある先生は、当科での研修中に、国内、国際学会、英文誌による発表を指導します。
- 資金面については、学会参加費は、聴講のみ、発表者に関わらず全額研究費で負担しております。
- 2022年1月~2023年4月までの期間に3件の研究資金獲得、1件の学会賞受賞、5件の教科書・ガイドライン執筆、15件の英文論文、18件の学会発表を行いました。
- 2022年1月~2023年4月までの期間に3件の研究資金獲得、1件の学会賞受賞、5件の教科書・ガイドライン執筆、15件の英文論文、18件の学会発表を行いました。

## 2022年1月~2023年4月までの実績

### ○ 獲得した研究費

- 南野 高志. COVID-19における重症化予測バイオマーカーの解析. 公益財団法人 臨床研究奨励基金 臨床研究助成. 2022年-2023年
- 岡元 昌樹. 皮膚筋炎における急速進行性間質性肺疾患の発症を予測するMDA5遺伝子変異の解析, 文部科学省科学研究費基盤研究C, 2022年~2024年.
- 岡元 昌樹. 新規のプロテオーム解析法による間質性肺疾患の診断バイオマーカーの探索令和4年度 2022年度日本呼吸器学会ベーリンガーインゲルハイム研究助成

### ○ 学会賞

- 2023年4月 日本内科学会「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ」優秀演題賞 内屋敷 佳弘、岡元 昌樹. 特発性間質性肺炎のバイオマーカーとしての自己抗体の解析.

### ○ 教科書、ガイドライン

- 岡元 昌樹, 他. 日本呼吸器学会 特発性肺線維症の治療ガイドライン 2023
- 高橋 雅士、藤本 公則、岡元 昌樹、他. 画像診断の勘どころ. 結合組織疾患 (膠原病) 関連間質性肺疾患の基本. p372.
- 岡元 昌樹, 他. 特発性間質性肺炎 診断と治療の手引き第4版 第2章 診断の進め方. 3. 一般検査, 4. 特殊検査. 2022: 10-26, 27-37.
- 岡元 昌樹、星野 友昭. 臨床検査のガイドライン (JSLM): 間質性肺炎. 2021; 3: 269-273.
- 岡元 昌樹、東 公一、星野 友昭. 胸部リンパ系疾患. 内科学第12版10巻, 朝倉書店.

### ○ 症例報告

- Tomohiro Tanaka, Masaki Okamoto, Norikazu Matsuo, Yoshiko Naitou-Nishida, Takashi Nouno, Takashi Kojima, Yuuya Nishii, Yoshihiro Uchiyashiki, Hiroaki Takeoka and Yoji Nagasaki. Case Series of Patients with Coronavirus Disease 2019 Pneumonia Treated with Hydroxychloroquine. *Medicina* 2023; 59: 541. Published: 10 March 2023

### ○ 原著論文

- Zaizen, Y.; Tachibana, Y.; Kashima, Y.; Bychkov, A.; Tabata, K.; Otani, K.; Kinoshita, Y.; Yamano, Y.; Kataoka, K.; Ichikado, K.; Okamoto, M.; Kishaba, T.; Mito, R.; Nishimura, K.; Yamasue, M.; Nabeshima, K.; Watanabe, K.; Kondoh, Y.; Fukuoka, J. Alveolar Epithelial Denudation Is a Major Factor in the Pathogenesis of Pleuroparenchymal Fibroelastosis. *J. Clin. Med.* 2021, 10, 895. doi: 10.3390/jcm10050895
- Zaizen Y, Okamoto M, Azuma K, Fukuoka J, Hozumi H, Sakamoto N, Suda T, Mukae H, Hoshino T. Enhanced immune complex formation in the lungs of patients with dermatomyositis. *Respir Res.* 2023 Mar 19; 24 :86.
- Ogura T, Suda T, Inase N, Nishioka Y, Azuma A, Okamoto M, Takizawa A, Ito T, Rohr KB, Inoue Y. Effects of nintedanib on disease progression and safety in Japanese patients with progressive fibrosing interstitial lung diseases: Further subset analysis from the whole INBUILD trial. *Respir Investig.* 2022; 60: 787-797. doi: 10.1016/j.resinv.2022.06.009. Epub 2022 Aug 1.
- Hidenobu Ishii, Koichi Azuma, Takayuki Shimose, Hiroshige Yoshioka, Takayasu Kurata, Naoki Shingu, Masaki Okamoto, Yosuke Kawashima, and Isamu Okamoto. Phase II study of Durvalumab (MEDI 4736) plus carboplatin and etoposide in elderly patients with extensive-stage small-cell lung cancer: Study protocol of Turtle study (LOGIK 2003). *Thoracic Cancer.* 2023 Jan;14(1):105-107.
- Terada-Hirashima J, Suzuki M, Tsujimoto Y, Hamamoto Y, Uemura Y, Tsushima K, Inoue H, Komatsu S, Saito Z, Tsuzuki R, Okamoto M, To Y, Moriya K, Yoshizawa S, Tanaka M, Muto T, Mikami A, Takasaki J, Izumi S, Ohmagari N, Hojo M, Sugiura W, Sugiyama H. Impact of inhaled ciclesonide on asymptomatic or mild COVID-19: A randomized trial. *Drug Discov Ther.* 2022 Nov 20;16(5):225-232. doi: 10.5582/dtd.2022.01068. Epub 2022 Oct 26.
- Koga T, Okamoto M, Satoh M, Fujimoto K, Zaizen Y, Chikasue T, Sumi A, Kaieda S, Matsuo N, Matama S, Nouno T, Tominaga M, Yatera K, Ida H, Hoshino T. Positive Autoantibody Is Associated with Malignancies in Patients with Idiopathic Interstitial Pneumonias. *BioMedicine.* 2022 Oct 2; 10 (10): 2469.
- Wang QS, Edahiro R, Namkoong H, Okamoto M, Tokunaga H, et al. The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force. *Nat Commun.* 2022 Aug 22; 13 (1); 4830.
- Tsuneyoshi S, Zaizen Y, Okamoto M, Hoshino T. IgG4-related lung disease showing a desquamative interstitial pneumonia pattern in radiology and pathology. *BMJ Case Rep.* 2022 Aug 1; 15 (8): e249998.

- Nishioka Y, Toyoda Y, Egashira R, Johkoh T, Terasaki Y, Hebisawa A, Abe K, Baba T, Fujikura Y, Fujita E, Hamada N, Handa T, Hasegawa Y, Hidaka K, Hisada T, Hisata S, Honjo C, Ichikado K, Inoue Y, Izumi S, Kato M, Kishimoto T, Okamoto M, Miki K, Mineshita M, Nakamura Y, Sakamoto S, Sano M, Tsukada Y, Yamasue M, Bando Y, Homma S, Hagiwara K, Suda T, Inase N. Nationwide retrospective observational study of idiopathic dendriform pulmonary ossification: clinical features with a progressive phenotype. *BMJ Open Respir Res.* 2022 Sep; 9 (1): e001337.
- Yano C, Tominaga M, Naito Y, Tokunaga Y, Kinoshita T, Sasaki J, Okamoto M, Yaita K, Obara H, Kakuma T, Hoshino T, Kawayama T. Airway hyperresponsiveness and inflammation in Japanese patients with human immunodeficiency virus 1 infection. *J Infect Chemother.* 2022 Mar; 28(3): 426-433.
- Inoue Y., Wells AU, Song JW, Xu Z, Kitamura H, Suda T, Okamoto M, Müller H, Coeck C, Rohr KB, Kolb M, Brown KK. Nintedanib in Asian patients with progressive fibrosing interstitial lung diseases: results from the INBUILD trial, *Respirology.* *Respir Med.* 2021 Oct;187:106574. doi: 10.1016/j.rmed.2021.
- Takai M, Ono J, Okamoto M, Fujimoto K, Kamei A, Nunomura S, Nanri Y, Ohta S, Hoshino T, Azuma A, Izuhara K. Establishment of a novel ELISA system for measuring periostin independently of formation of the IgA complex. *Ann Clin Biochem.* 2022 Sep; 59 (5): 347-356.
- Komatsu M, Yamamoto H, Uehara T, Kobayashi Y, Hozumi H, Fujisawa T, Miyamoto A, Kishaba T, Kunishima F, Okamoto M, Kitamura H, Iwasawa T, Matsushita S, Terasaki Y, Kunugi S, Ushiki A, Yasuo M, Suda T, Hanaoka M. Prognostic implication of IgG4 and IgG1-positive cell infiltration in the lung in patients with idiopathic interstitial pneumonia. *Sci Rep.* 2022 Jun; 12 (1): 9303.
- Yamada H, Okamoto M, Nagasaki Y, Yoshio S, Nouno T, Yano C, Tanaka T, Watanabe F, Shibata N, Arimizu Y, Fukamachi Y, Zaizen Y, Hamada N, Kawaguchi A, Hoshino T, Morita S. Analysis of Early Biomarkers Associated with the Development of Critical Respiratory Failure in Coronavirus Disease 2019 (COVID-19). *Diagnostics* 2022; 12: 339.

## ○ 学会発表

- 岡元 昌樹. シンポジウム2 高齢者びまん性肺疾患の治療ー薬剤性間質性肺疾患ー. 第90回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部 春季学術講演会, 2023年3月11日, 熊本
- 岡元 昌樹. シンポジウム1 間質性肺炎の診断の進歩: 間質性肺炎領域で注目されている診断方法、検査. 間質性肺疾患のバイオマーカー. 第2回日本びまん性肺疾患研究会, 2022年10月1日, 東京
- 岡元 昌樹. 膠原病合併間質性肺疾患における抗線維化薬治療の位置づけ. 第63回九州リウマチ学会イブニングセミナー, 2022年3月19日, 久留米
- 松尾 規和、西井 裕哉、田中 智大、児島 隆、南野 高志、西田 佳子、武岡 宏明、岡元 昌樹. 薬剤性肺炎の重症度と機関誌は違法洗浄所見の関係. 第63回日本呼吸器学会学術講演会, 2023年4月29日, 東京
- 岡元 昌樹、佐藤 実、財前 圭晃、古賀 琢磨、角 明子、近末 智雅、真玉 豪士、富永 正樹、藤本 公則、星野 友昭. 抗核抗体、抗ARS抗体は、特発性間質性肺炎における悪性腫瘍合併のリスク因子である. 第63回日本呼吸器学会学術講演会, 2023年4月29日, 東京
- 岡元 昌樹、財前 圭晃、出原 賢治、星野 友昭. 血清ペリオスチン値は、特発性肺線維症の抗線維化薬投与例のバイオマーカーである. 第63回日本呼吸器学会学術講演会, 2023年4月28日, 東京
- 内屋敷 佳弘、岡元 昌樹. 特発性間質性肺炎のバイオマーカーとしての自己抗体の解析. 日本内科学会「医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ」優秀演題賞. 2023年4月15日, 東京 (現地)
- 岡元 昌樹. 間質性肺疾患重症度の関連因子の解析. 第90回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部 春季学術講演会, 2023年3月11日, 熊本
- 西井 裕哉、岡元 昌樹、田中 智大、児島 隆、南野 高志、西田 佳子、松尾 規和、武岡 宏明、中村 真隆、宮村 知也. 治療抵抗性であった関節リウマチ関連間質性肺疾患に対してウパダシチニブが奏功した一例. 第90回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部 春季学術講演会, 2023年3月11日, 熊本
- 西井 裕哉、田中 智大、児島 隆、南野 高志、西田 佳子、松尾 規和、武岡 宏明、岡元 昌樹. 治療に難渋した抗ARS, Ro52抗体陽性皮膚筋炎関連間質性肺炎の一例. 第90回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部 春季学術講演会, 2023年3月11日, 熊本
- 西井 裕哉、南野 高志、田中 智大、児島 隆、西田 佳子、松尾 規和、武岡 宏明、宮崎 貴大、宮松 雄一郎、岡元 昌樹. 進行性の麻痺症状を有する転移性脳腫瘍に対してtepotinibが奏功したMET遺伝子陽性肺癌の一例. 第63回日本肺癌学会九州支部学術集会, 2023年2月10日, 長崎
- 田中 智大、岡元 昌樹、原口 玲未、岩崎 浩己. 慢性線維化性間質性肺疾患の中等症以下の症例における客観的重症度指標の解析. 第15回福岡県医学会総会. 2023年2月5日, 福岡
- 大熊 玲、田中 智大、武岡 宏明、西井 裕哉、児島 隆、南野 高志、岡元 昌樹、長崎 洋司、星野 友昭. 両側性すりガラス陰影を伴った第2期梅毒の一例. 第89回日本呼吸器学会九州地方会, 2022年10月15日, Web開催
- 岡元 昌樹、財前 圭晃、川口 淳、出原 賢治、星野 友昭. 特発性肺線維症のニンテダニブ投与例における血清バイオマーカーとしてのペリオスチンの解析. 第2回日本びまん性肺疾患研究会, 2022年10月2日, 東京
- 大熊 玲、田中 智大、岡元 昌樹. 喫煙の関連が疑われたIgG4関連間質性肺疾患の1例. 第87回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部秋季学術講演会, 2022年3月19日, 福岡
- 田中 智大、武岡 宏明、山田 啓義、矢野 千葉、西田 佳子、南野 高志、坂元 暁、岡元 昌樹、星野 友昭. 当院における Nivolumab+Ipilimumab±Chemo 併用療法症の検討. 第62回日本肺癌学会九州支部地方会学術集会, 2022年2月4日, 久留米, Web開催
- 坂元 暁、武岡 宏明、田中 智大、山田 啓義、矢野 千葉、西田 佳子、南野 高志、岡元 昌樹、星野 友昭. Nivolumab+Ipilimumab±Chemo 投与後に免疫関連有害事象 (irAE) による肝炎、膵炎と診断した 1 例. 第62回日本肺癌学会九州支部地方会学術集会, 2022年2月4日, 久留米, Web開催
- 山田 啓義、武岡 宏明、田中 智大、矢野 千葉、南野 高志、坂元 暁、西田 佳子、岡元 昌樹、星野 友昭. ROS-1 融合遺伝子及び MET14skipping 変異を認めた肺癌の一例. 第62回日本肺癌学会九州支部地方会学術集会, 2022年2月4日, 久留米, Web開催